

平野 広行 議員 清流クラブ

各地区の特色を生かした
都市計画マスタープランを

問

弥富市都市計画マスタープランについて、市を北部、中部、南部の3つの地域に区分した地区別構想に沿って質問する。

- (1) 北部地域について、J R・名鉄弥富駅の自由通路及び橋上駅舎化の整備を32年度末完成に向けて取り組むとの方針が示され、予算が三十数億円から20億円前半の金額になったと聞くと、これは事業内容がどのように変更されたことによるものなのか。
- (2) 財源はどのようなものか。
- (3) 自治体の財政の健全化を示す指標の一つである実質公債費比率は、9月議会で市から説明されたときは、26年度は7.0%であった。28年度以降、最大でどれくらいになると予想するか。

(4) 中部地域が発展するには、農業の6次産業化(指)の拠点を設けてはどうかと考える。

市はどのような支援を考えているか。



第一次産業の農林水産業が、生産だけにとどまらず、製造・販売や観光農園のような地域資源を生かした第二次産業や第三次産業にまで踏み込むこと。

- (5) 南部地域は、物流・製造業の集積を目指し、末広地区66ha、八穂地区35haが、ものづくり産地として位置づけられたが、計画から5年が経過した現在、開発行為はいまだに行われていない。
- 開発行為を行うに当たっては、県企業庁が示す開発要件をクリアしなければならぬが、その要件とは。
- (6) 現状では計画どおり、末広・八穂での開発を優先

して順次進めていくということによるしいか。

それぞれの特色を生かしながら
まちづくりを進めたい

答 開発部長

(1) 弥富駅周辺整備計画は、22、23年度に、J R・名鉄弥富駅北口広場から中央駅前広場、近鉄弥富駅南口広場を自由通路で結ぶ弥富駅周辺整備基本構想(案)を策定した。24年度には、この基本構想のうち、事業効果を早期発現するためJ R・名鉄弥富駅自由通路及び橋上駅舎化整備を先行する形での基本計画を概算事業費三十数億円で進めていた。9月議会で示した整備方針では、20億円前半の事業費として説明している。

見直した内容は、自由通路及び階段部の幅員の狭小化、駅舎部面積及び通路部の狭小化、エレベーターを自由通路と駅舎で共用することによる減数、仮跨線橋及び仮ホームを必要としない計画、通信施設などの影

響を極力抑えた施設配置などにより、全体的にコンパクト化したことにより事業費が変更となった。

答 財政課長

(2) 自由通路は、国の交付金である社会資本整備総合交付金の活用を予定している。また、その交付金対象経費で交付金以外の市負担の部分は、充当率90%の公共事業等債の充当を予定している。そのほか交付金の対象とならない駅舎部分などは、J Rの負担金を除き、充当率75%の一般単独事業債で充当し、起債で充当できない部分は基金を活用していきたい。

(3) 単年度の数値で、29年度に最大で7.3%になる見込みである。

答 市長

(3) しつかりと財政計画を煮詰めながら、さまざまな事業を推進していくことが正しいと思っている。

答 開発部長

(4) 市では、国や県のサポートの紹介や橋渡しを行い、

また市が中心となって地域の農業者、商工業者、JAなどが参加する6次産業化推進協議会を設置し、取り組まれた方が6次産業化を推進するために地域ぐるみで取り組める方策を検討できるような場を設けている。

- (5) ①地区計画が定められていること、またはその見込みがあること。②用地取得の見込みがあること。③廃棄物の埋設及び土壌汚染がないことの確認がされていること。④資金計画上支障がなく、かつ採算が確保できること。⑤企業立地の確実な見通しがあること。⑥市の積極的な協力が得られること。

答 市長

(6) 現都市計画マスタープランに沿って優先的に進めていく。

(6) 企業庁や地権者と我々行政がしっかりと都市計画マスタープランに沿って協議をしていかななくてはならないと思っている。